



まちづくりアドバイザー派遣制度

「フードロス削減を軸とした産学官連携による地域コミュニティ創出プロジェクト」

かすみがうら市産業経済部 地域未来投資推進課
主任 稲垣 陽介

■はじめに

かすみがうら市は、県内の果実産出額が第1位（農林水産省令和2年市町村別農業産出額（推計））であり、年平均気温が高く、年間降水量が少ないことから、梨・柿・いちご・ぶどう・栗・ブルーベリーなど、あらゆる果物の栽培に適しており、1年を通して果物狩りができることが地域の特徴となっております。



■経緯

今回は、関東一の規模（約6.5ha）で、種類の多さでも全国トップクラスの約135種類のブルーベリーを栽培している「坂農苑」を舞台に、未収穫果実の収穫体験、新商品開発や地域コミュニティの場づくりをテーマとしたアイデアコンテストを「産」（（株）八芳園、（株）サザコーヒー）「学」（筑波大学、農業・食品産業技術総合研究機構）「官」（茨城県、かすみがうら市）連携により実施しました。

およそ30t収穫できる農地ですが、人手や販路の観点で、10tほどは未収穫で自然放置によるロスが発生していることに加え、以前行っていた観光農園も2011年以降休園しており、人の還流と地域コミュニティの場として再生・利活用することが課題となっております。本背景を踏まえ「いばらきフードロス削減プロジェクト」の一環として、坂農苑をはじめ、各種ステークホルダーのご協力のもと本プロジェクトが始動しました。



プロジェクトの趣旨説明の様子（坂農苑内の蔵）

■プロジェクト内容

収穫や商品開発のほか、環境デザインやまちづくりの視点を加えるため、地域全体をプロデュースする筑波大学芸術系の渡和由准教授（まちづくりアドバイザー）を講師に迎えました。



農園内の木陰で場づくりを学ぶ様子

収穫・商品化によるフードロス削減に加え、プレイスメイキングやデザインの観点による「場づくり」をテーマに、農園を地域コミュニティ創出の場として活用するなど、まちづくりの地域振興策を検討し、地域事業者やまちづくりの活性化、発展につなげる取組です。

筑波大の学生により7～8月の3日間で約80kgのブルーベリーを収穫し、コミュニティ活動や場づくりについて学生が現地で体感する機会となりました。



ブルーベリー収穫の様子

10月には筑波大学校内にあるサザコーヒー筑波大学アリアンサ店にて、「未収穫果実再生アイデアコンテスト」を開催しました。アート・デザインプロデュース演習の学生22人からの提案があり、新しい商品部門においては、ブルーベリーホットミルクや冷凍ブルーベリーケーキ、ブルーベリーフォンデュ等斬新なアイデア提案がありました。場のデザイン部門においては、農園を郷土学習や療養中の子供のピクニックの場にする案等、地域コミュニティ創出の場として、学生らしいユーモアのある発想が印象深く残っています。



■今後の展望

引き続き、かすみがうら市の特産品である果物を軸に、販路拡大と魅力度向上により、事業者に対する生産性や価値向上の後押しを促進するとともに、「フードロス」に係る取り組みを推進し、環境問題に対する機運醸成の底上げを図ってまいります。また広大な農地である坂農苑をフィールドに、不足する地域住民のコミュニティの場として、人が集う、多様な資源が循環する空間整備を図り、まちづくり全体の発展に繋がっていきたくと考えております。



アイデアコンテスト発表の様子



アイデアコンテスト全体写真

今回、プロジェクトにご参画いただいた皆様方におかれましては、趣旨ご賛同のうえご協力賜り深く感謝申し上げます。

まちづくりアドバイザー＝派遣制度の実績紹介（令和4年度）

○日立市 都市政策課

「日立駅周辺及び市役所周辺におけるにぎわい政策の検討」【アドバイザー：内山 征 様】

【講演内容】

まちづくり施策やウォークアブルネットワーク、エリアプラットフォーム等の検証と意見交換を行い、まちのにぎわいを生む「地域主体のまちづくり」の政策を検討する。

【主催者感想】

アドバイザーからの講義とワークショップ形式の意見交換により、日立駅周辺の現状と課題、既存ストックを洗い出し、まちづくり施策等の検証を進め、「地域主体のまちづくりプラン（案）」をまとめることで、にぎわいづくりの第一歩を踏み出した。



現地視察



講演会

○新平須地域環境保全会（稲敷市）

「持続可能な地域づくり講演会」【アドバイザー：藻谷 浩介 様】

【講演内容】

「稲敷＝ツナガル＝まちづくり」をテーマに、まず現地を視察した。視察後は地元食材を使った食事ランチミーティングを行い、稲敷市が食の生産地であることを参加者で共有した。

そして、市民向けに「市民・企業等・行政」が様々な分野で連携・協力することやまちづくり活動を市民が担っていくことについて講演会を行った。

【主催者感想】

現地視察を通して、地域資源の活用の仕方やPR方法のヒントをいただいた。講演会では、メディアやインターネットを鵜呑みにせず、自分で調べて現実をきちんと捉えることの大切さを教えていただいた。これからのまちづくり活動へととても良い刺激になった。